



視 点

全国夏期セミナーの季節です！ 長野県松本市でお会いしましょう！！

2026年8月1日・2日、45回目の全国夏期セミナーを長野県松本市で開催をいたします。今回のセミナータイトルは、「包括的性教育をだれもが学ぶために一分断や排除を超えて、『個人の尊厳』を保障する地域へ」を掲げています。現在の世界と日本の時代状況をみますと、このタイトルの意味を学び、地域のなかで何をしなければならないかをともに考えることを呼びかけています。

長野県での全国セミナーの開催は3回目となります。まさにサブタイトルにある『『個人の尊厳』を保障する地域へ』という実践的な取り組みをしてきたのが長野サークルでもあります。地域からどのように包括的性教育の実践と研究を拡げていくのか、子ども・若者の人権を大切にするために、明日の実践への確かな歩みをすすめていきましょう。

この時代に“まっとうな人間的な怒り”を私たちが持ち続けるために、求められている知性と勇気を本セミナーで学んでいただける企画を準備しています。

記念講演は「サンデーモーニング」のコメンテーターでおなじみの安田菜津紀さんです。世界の紛争地域に足を運んで、民衆の現実から目を逸らすことなく、真実を語り続けているフォトジャーナリストです。

シンポジウムは、地域に視点をあてて、地域のなかで何が、どこまでできるのかを探求してきた「りんごっ子保健室キャラバン」と行政が協働して行った地域に根ざした実践から学びたいと思います。地域から希望をつくることはできるという確信をもって、全国に持ち帰っていただきたいと願っています。

日本人は、“他者への関心が薄い”とよくいわれます。最近では、名古屋大学の研究グループがアメリカ人と比較して、日本人は共感的な関心が低く、自らが苦しんでいるときに社会的な支援を求めにくいという報告があります。身近な人たち、同じコミュニティに住んでいる方々、そして世界の人々の姿に想いを馳せる一人ひとりの想像力が問われています。

地域における「隣人（となりびと）」という関係は、「してあげる－される」という一方向の関係ではなく、困難を抱える人に出会ったら、誰もが手助けできる関係性のことをいいます。そうした地域づくりに、包括的性教育の旗を掲げて、希望を足元から創っていきましょう。

全国の会員、仲間みなさん、ぜひ会場にお越しください。今回はどうしても現地に行けないという方は、ぜひリモートでの参加をお待ちしています。

希望と勇気は学びのなかでよく出会います。子ども・若者にとって、この国、この地域に暮らしてよかったと思える社会をめざして学び続けましょう。

セミナー1日目の8月1日には、夏まつり「松本ぼんぼん」が開催されます。かなり込み合うとのこと。宿泊先をまだ確保されてない方はお急ぎください。地域の文化を反映した歌と踊りで、松本市の夏の風物詩となっています。

8月3日には、オプションツアーを安全第一で準備しています。沖縄から長野に全国セミナーのボタンが手渡しされた意義を共有できるツアーです。もう一日、バスで行く戦争と平和の旅をご一緒しましょう。

旅の楽しみは美味しい食べ物とお土産ですね。松本名物をせっかく行くならいっぱい食べましょう！なんといっても信州そば、山賊焼き（はて、何かな？）、馬肉料理は松本でぜひ、「おやき」はいろんな種類があります！牛乳パンは前日予約が必要ですので、飴菓子、アップルパイ、信州ワイン、クラフトビール「松本ブルワリー」…あなたはどれを選びますか？



浅井 春夫
（性教協代表幹事・第45回全国夏期セミナー長野大会in松本 実行委員長）